

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立打上小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	【学力向上】学力向上対策評価シートに示したマイルストーンを100%達成。学習状況調査結果からも、保護者から児童や教職員の頑張りを評価してもらえた。 【キャリア教育】自分が決めたことや夢・目標を意識して取り組むことができた。ゲストティーチャーを迎える取組を増やし、キャリア教育の充実を図ることができた。 【心の教育】よくあいさつし、友達や下級生への面倒みもよい。素直でよい打上っ子が育っている。いじめの早期発見・早期対応・組織的対応ができていた。課題解決について、自ら考えて取り組んだ児童が96%であった。 【健康・体づくり】コロナ禍ではあったが、体力向上のための取組を充実させた。元気に外遊びや体力作りができた児童は95%であった。「早寝・早起き・朝ごはん」の達成率も90%を超えることができた。
------------------	---

2 学校教育目標	夢中になって躍動し 共に たくましく生きる子どもの育成
----------	------------------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇進んで課題解決を図る子（夢中になって躍動）・・・やる気【知】 ◇思いやりのある子（共にかかわる）・・・がまんの気【徳】 ◇心身の健康に関心をもち、やり遂げる子（たくましく生きる）・・・げん気【体】
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

重点取組内容・成果指標	(1)共通評価項目		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	取組内容		成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●学力の向上	○児童が目的意識をもちながら学び合い、自分の考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の考えを表現する場を授業の中に設定する。	○なおよし学習を軸とした授業を展開し、授業で「わかった」「がんばった」と肯定的な回答した児童80%以上	「唐津の学びスタイル」に合わせたなおよし学習の実践を図り、深い学びへつながる授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。	A	・「なおよし学習」を進めながら、個別最適な学びや協働的な学びに向かうための「児童進行」や毎時間の「振り返り」について情報交換や進捗の確認を行った。 ・授業で「わかった」「がんばった」と肯定的な回答した児童99%だった。	A	・特に言うことなし。 ・保護者の評価が高いのが素晴らしい。 ・低学年からの積み上げがあり、高学年のよい結果につながっている。	各担任
	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●道徳授業の充実と支持的風土の学級経営により、人権意識や自己肯定感、規範意識の涵養が出来た児童80%以上	・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・児童の実態に合わせた内容を取り上げ、身近な問題として考えさせるようにする。	A	・Q-Uアンケートの結果を有効活用しながら、学校全体で共通した指導や対応ができるよう、生活協議会等で何度も確認した。 ・各担任による道徳の授業は、実態を捉えた内容で、児童の心に届く指導を意識できた。 ・児童の人権意識等に関する自己評価達成率は97%だった。	A	・先生方の日頃の指導が生きている。自己肯定感や充足感の高い子供が育っている。 ・高学年が落ち着きもあり、周りに目が行き届いているので、成長が見て取れる。打上小のよい伝統が引き継がれている。	尾島・浜中(道徳教育推進教師・人権・同和教育担当・生活主任)
		●いじめの早期発見・早期対応に向けた取組の充実	●いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていたと回答した教職員80%以上	・なおよしアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・日々の児童観察を大切に、アンケートに表れていない面についても、気になることの早期発見・早期対応に努める。 ・毎月の生活指導協議会で対応の仕方を協議し、組織的な対応を行う。	A	・なおよしアンケートを毎月実施し、気になる児童について取り上げながら、具体的な支援策を共通理解して対応することができた。また、アンケート結果については級外を含めた全職員へ回覧し、確実に情報共有を行った。 ・小さな事案に対しても、担任が一人で抱え込むことなく、組織対応ができた。 ・教職員の「いじめ防止のため、周りと協力して対応している」の項目に対する評価は90%達成であった。	A	・乱暴な言葉はほとんど聞かれない。 ・なおよしアンケートを中心に、子供たちをしっかりと見守っていたらいい。	浜中・吉田(生徒指導・いじめ防止担当)
		●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	・自己肯定感が高まる取組を行い、積極的に掲示物や放送で紹介するなど広報に努める。 ・外部講師を積極的に呼び込み、キャリア教育を充実させる中で、自分の夢や目標をしっかりと持てるような取組を行う。	A	・いきいき学ぶからつ子育成事業費等を有効活用し、キャリア教育につながる取組を各学年・クラスで実施することができた。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」児童の肯定的回答96%。 ・「自分で決めたことや夢(目標)に向かってがんばっている」児童の肯定的回答97%。	A	・夢に向かってがんばる項目について、保護者の評価が少し低く出ているが、社会体育などをみると、打上の子供たちがしっかりと育っているのを感じる。	諸岡・永田(キャリアパスポート担当・特活主任)
●健康・体づくり	○特別活動による自主的実践的な態度の育成	○「よく見る・よく聞く・よく考える」を合い言葉に、学習や活動に真剣に取り組むことができた児童80%以上	・活動の前にはめあてを確認し、意識させ、活動の後には振り返りの場を設けて、頑張りや協力の視点で発表させたり、まとめたりする。 ・授業中の友達の発言をしっかりと聴くよう指導し、話す人も相手を意識させる。	A	・全校集会や児童集会等の機会を活用し、全校の前で意見する場面を意図的に設け、一人一人の自信につながる取組を行った。 ・活動の反省や感想等では低学年の児童も意見を述べることが増えた。 ・「何かあった時、その解決に向けて自分で考えて取り組んでいる」児童は96%。	A	・しっかりと話を聞ける子供が育っている。例えば、相手の顔を見て話を聞く、顔く、わからないことは聞くなど、当たり前のことをきちんとやれている。先生方の指導の賜物である。	永田・諸岡・宮原(特活部)	
	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣ができていたと回答した児童85%以上	・保護者への啓発と児童への声かけを頻繁に行う。	A	・「早寝・早起き・朝ごはんができていた」と回答した児童は90%。しかし、全く当てはまらない回答した児童や保護者もあり、全員が達成できるような取組の精査が必要である。 ・できるだけ集団で登下校できるような仕組みを整え、登下校を含め、年間を通して交通事故や大きな生活事故は0であった。	A	・朝ごはんを全く食べていない子供はいないよう安心して。 ・早寝早起きは決まった子供ができていないようだが、保護者への啓発を今後も継続して行ってほしい。	山村(佐々木)・井上(栄養教諭・保健担当)	
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	・集団下校前の指導の中で交通安全に触れ、安全意識の定着を図る。	B	・アフターコロナの下、体育関連の行事を例年通り実施したり、ブロック(縦割り)遊びで外での遊びを取り入れるなど工夫・改善を積極的にに行った。 ・児童の「よく運動や外遊びをしている」の回答は88%と高かったが、教師や保護者の外遊びへの意識が高くなく、意識改善が必要。	B	・外遊びについては時代の流れだろうか、学校外ではなかなか見かけなくなった。学校での取組や意識付けは大いに評価できる。 ・歩いて登校も強制することは難しい。一番手っ取り早く体力をつけられることは思うが、今の取組を続けてほしい。	中尾・田代(保体部)	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外勤務時間を月平均30時間以内を目指す。(年間360時間以内) ・業務の精選と効率化を図り、質の高い業務内容を目指す。	A	・4～12月の時間外勤務時間は、月一人平均27.26であった。目標としていた30時間を切ることはできたが、職員の中には数人、帰りの時間が遅くなったことへの反省がみられた。	A	・時間外勤務時間が年々減っているとのこと、このまま効果のある取組を続けてほしい。	松竹・吉田(服務・業務の効率化担当)	
	○年次休暇の積極的な消化のための意識改革	○個人が持っている年次休暇の消化を25%以上	・定時退勤の推奨 ・行事の精選による放課後の時間の確保 ・記念日休暇の積極的取得	A	・令和5年の年次休暇消化率は、一人平均29.8%で目標の25%を上回ることができた。 ・長期休業中を中心に積極的な年次休暇消化がみられた。平日も気軽に消化できる雰囲気醸成に努めることができた。	A	・特になし。	松竹・吉田(服務・業務の効率化担当)	

重点取組内容・成果指標	(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
	評価項目	重点取組内容		成果指標 (数値目標)	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○ICT活用教育の推進	○1人1台端末活用の推進	○1人1台タブレットを活用できた児童と教師80%以上	・教職員間でタブレットの活用法を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・「勉強する時、タブレットを使っているのが好き」と回答した児童は93%。しかし、その活用に教師や保護者は満足しておらず、活用法の見直しと検討が必要である。	A	・タブレットを持ち帰った時、保護者も我が子が何をしているのかわかっていないのでは？ ・情報モラル教育も含め、継続的な活用と保護者への周知をお願いしたい。	田代(ICT担当)・各担任	

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 <p>今年度は不登校や長期欠席の児童を出さない・つづらない取組を学校が一体となって実施・実現することができた。教職員間の情報共有は密に行うことができ、一人で抱え込まないチームとしての体制づくりを確立できた。 ・インクルーシブ教育やSDGsの視点で教育課程を仕組み、周りの人のことも考えられる社会性や自ら進んでいるいろいろなことに取り組める積極性を身に付ける児童を育成することができた。 ・何事にも「本気」でチャレンジし、友達と仲良く学校生活を送ることができる環境を様々な角度から整えることで、伝統的な打上っ子らしい「真面目で、明るく、優しい、思いやりのある児童」を育てることができた。</p>
----------------	---